

# キャンプ経験がサッカージュニアユース選手の自己評価に及ぼす影響

～ふりかえりに着目して～

一本 直樹 (生涯スポーツ学科 野外スポーツコース)

指導教員 黒澤 毅

キーワード：自己評価、ふりかえり、サッカー、ジュニアユース選手

## 1. 序論

近年のサッカー界の急速な発展に伴い、日本サッカー協会 (JFA) は、次世代を担う選手の育成に力を入れている。選手の育成には、技術や体力向上だけでなく、感性・徳性なども重視して、人間性を調和的、全面的に発達させることを目的とすることが注目されている。一方、野外教育の中で行われるキャンプは、普段の生活より人間関係の技能に関して気づきが多く含まれ、集団の中でいかに生活するかが調和の取れた人間育成において重要であるとされている。また、学習者の成長を図る効果的な方法としてふりかえりが取り上げられ、その重要性も指摘されている<sup>1)</sup>。

そこで本研究は、キャンプ経験がサッカー選手の自己評価に及ぼす影響をふりかえりに着目して明らかにすると共に、サッカーの試合場面の意識の変化に及ぼす影響を検討することを目的とする。

## 2. 研究方法

【対象】2010年8月6日～9日のキャンプに参加したBサッカークラブ所属の中学生36名を対象とし、サッカーの試合場면을想起させる内容を含んだふりかえりを行なった22名を実験群とし、キャンプのふりかえりのみ行なった14名を統制群とした。また、キャンプに参加しなかった大阪府T市G中学校のサッカー部員、15名をキャンプ未経験群とした。

### 【調査用紙】

①自己評価に関するアンケート：Rosenberg<sup>2)</sup>が作成した「自尊感情尺度」を使用した。②サッカーの試合場面の意識のアンケート：徳永・橋本<sup>3)</sup>が作成した「心理的競技能力診断検査」をもとに筆者が独自に変更を加えたものを使用した。③キャンプのふりかえりシート及び④サッカーの試合場면을想起させるふりかえりシートについては筆者が独自に作成した。調査時期を表1に示した。

表1 調査時期

	pre	camp1	camp2	camp3	camp4	post
キャンプ 経験群	①②	③④	③④	③④	③④	①②
統制群	①②	③	③	③	③	①②
キャンプ未経験群	①②	x	x	x	x	①②

## 3. 結果と考察

1) 自己評価得点は、実験群と統制群において、有意な差はみられなかった(表2)。

表2 自己評価得点と標準偏差(実験群-統制群)

	N	pre		post	
		M	SD	M	SD
実験群	17	31.41	5.95	31.29	5.48
統制群	11	30.18	7.15	30.00	6.48

その要因として、日常生活から同じ選手同士で関わっているため、特別な協力を要することや新たな自分を発揮する必要性がなかったことが向上につながらなかったと考えられる。また、ふりかえりを行うための環境が不十分だったと考えられる。ふりかえり場面では、体験した活動が想起されやすい場所で可能な限り実際の活動場所の近くで行うことや、活動に要した時間に合わせて十分な時間が必要であると考えられる。

2) サッカーの試合場面の意識得点は、実験群と統制群において、有意な差はみられなかった(表3)。

表3 サッカーの試合場面の意識得点と標準偏差(実験群-統制群)

	N	pre		post	
		M	SD	M	SD
実験群	14	118.86	12.34	115.64	15.77
統制群	8	119.00	13.70	115.88	12.15

その要因として、キャンプ経験がまだ一般化されていないことが考えられる。キャンプ中にサッカーの試合場면을想起させてもキャンプとかけはなれているため向上しなかったと考える。体験したことを体験後に自らの中で考え、一般化していくことがサッカーの試合場面の意識に影響するのではないかと考える。

## 4. まとめ

本研究では以下のことが明らかとなった。

1) キャンプを経験した選手の自己評価は向上しなかった。その要因として、選手同士の関係や指導者の関わり方が考えられる。

2) キャンプ中にサッカーの試合場면을想起させるふりかえりを行ってもサッカーの試合場面の意識は向上しなかった。その要因として、キャンプ中の想起はキャンプとかけはなれてしまい、一般化されないことが考えられる。

本研究では、ふりかえりに焦点を当ててキャンプを行ったが、自己評価、サッカーの試合場面の意識は向上しなかった。しかし、個人別において向上した者としなかった者に分かれた。キャンプでは、キャンプで体験したことをふりかえり、それを自己の中で考え、日常生活に戻ったときにキャンプで得たことを一般化することで、サッカーの試合場面の意識の向上につながると考える。今後、チーム結成時などチーム状況を把握した上でキャンプを行う必要がある。

## 5. 参考文献

- 1) 荒木恵理(2007)：冒険キャンプにおけるふりかえり活動が参加者の学習効果に及ぼす影響、野外教育研究 11巻11号
- 2) Rosenberg(1965)：自尊感情尺度、山本・松井・山城訳、心理測定尺度集I 人間の内面を探る(自己・個人内過程)29-31 サイエンス社
- 3) 徳永幹雄・橋本公雄(1988)：心理的競技能力診断検査、体育・スポーツの心理尺度 132-135 不昧堂